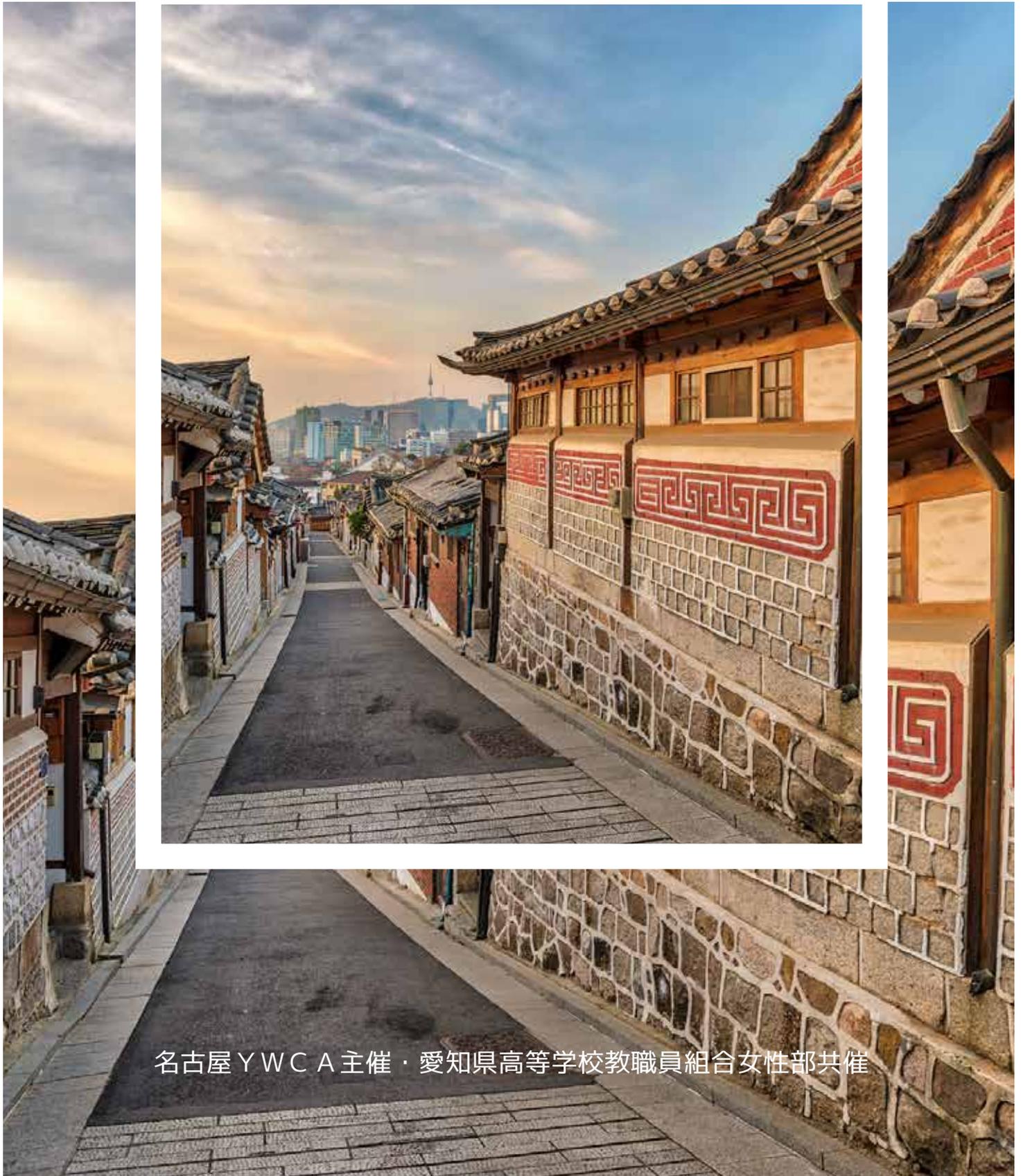


# 韓国スタディツアー報告書

「過去」を知り、「今」を学び、「未来」を作る旅

2023年7月31日～8月2日



名古屋YWCA主催・愛知県高等学校教職員組合女性部共催

## 目次

- 2 ごあいさつ
- 3 スケジュール
- 4 1日目(7/31) 行程・参加者からの報告
- 6 2日目(8/1) 行程・参加者からの報告
- 29 3日目(8/2) 行程・参加者からの報告
- 34 「これまで」と「これから」
- 35 ツアー概要
- 36 収支
- 37 お礼



## ごあいさつ

名古屋YWCAは今年で創立90周年を迎えました。これを記念して、国と国という枠組みを越えて、肩を並べ、手を取り合い、歩んでいくために、また、市民同士、知人・友人として互いを知り合うこと、共に今を生きる仲間となることを目的として、韓国スタディツアーを実施しました。

このスタディツアーでは、愛知県高等学校教職員組合女性部と協働して、日韓に関心のある女性たちだけでなく、未来を築いていくユース、未来を生きる子どもたちを育む先生方も対象にメンバーを募りました。メンバーは愛知県内に限らず幅広い地域から総勢38名、年齢もバックボーンも様々な女性たちが集まりました。たぶん年内で一番暑い気候の時に訪れた韓国で、丁寧で手厚いガイドを受けながら、メンバーそれぞれが想いを熱くされ、印象深い経験をすることができたと思います。

このスタディツアーの企画を現実的なものとして下さった、株式会社富士国際旅行社の山田さんには大変お世話になりました。

この企画を未来へつなげるものとして、日本YWCAよりローカルアクションの助成をしていただき、ありがとうございます。

現地のフィールドワークのみならず、食事やショッピングの時にも快く通訳をして下さった、風間さん・金さん・清川さん、ありがとうございました。3日間を通して、小さな身体のどこから力が出ているの？と思うほどエネルギーにガイドをして下さったハンさん、きめ細やかで心優しい対応をありがとうございました。合同フィールドワークでは、韓国教職員労働組合の方々がステキな合唱でもてなして下さい、感謝です。それぞれ訪問した博物館などでは毎回熱心に解説をして下さり、とても充実した時間を持つことができました。簡単ではございますが、ここにお礼を申し上げます。

参加したメンバーは、このスタディツアーでどんなことに気づき、どんな想いを持ち帰ってきたでしょうか。一人ひとりの想いが今後の活動に続くよう、願っています。

実行委員長 増井さとみ

# スケジュール

7月31日

7:00 中部国際空港集合  
9:00 空路ソウルへ

11:00 韓国仁川空港着  
空港近くで昼食

景福宮  
光化門広場  
平和の少女像 見学

夕食  
長寿カルメギ本店にて  
豚ハラミ焼肉

8月1日

3コースに分かれて  
フィールドワーク

**<韓国近代史を学ぶ>**

江華平和展望台  
江華歴史博物館  
草芝鎮  
西大門刑務所

**<慰安婦問題を学ぶ>**

ナムムの家  
戦争と女性の人権博物館

**<フェミニズム・青少年教育を学ぶ>**

ジェンダー平等活動支援センター  
ピースモモ  
アハ！青少年性文化センター

3コース合流（龍山駅会議室）  
韓国教職員との交流会

8月2日

午前フリータイム

植民地歴史博物館

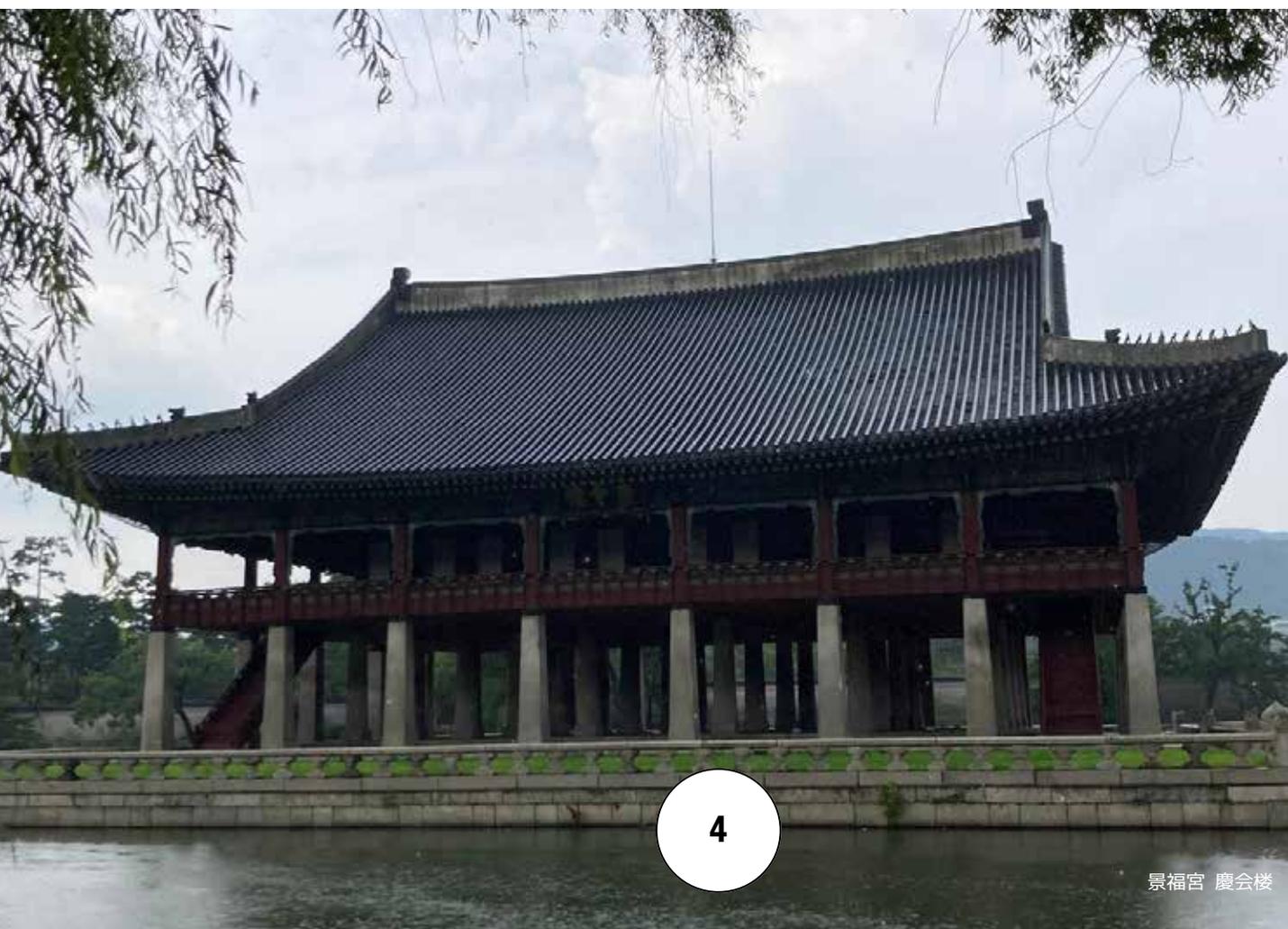
16:00 仁川空港発  
19:50 中部国際空港着  
入国審査後、解散

## 行程・1日目 歴史の足跡をたどる

中部国際空港の集合時間は、朝7時。早朝の空港に、総勢37名の女性たちが集まりました。宮城、東京、静岡、愛知、岐阜、大阪と広い範囲から参加があったことから、始発あり、夜行バスあり、前泊あり、の様々なアクセス方法で、眠い目をこすりながら、同時に期待に胸を膨らませてセントレア空港の第2ターミナルに集合しました。旅の始まりです。航空会社の自動チェックイン機に、悪戦苦闘しながらも無事に出国。約2時間の飛行時間で韓国の仁川空港に到着しました。

空港では、案内看板を持ったガイドのハンさん（한경례さん）が、出迎えてくれました。空港からは大型バスで移動。空港近くの食堂で昼食を取ったあと、金浦空港で羽田からの参加者1名と合流し、市内へと向かいました。バスの中では翌日の交流会でプレゼントする歌を何度も練習し1時間余りの移動時間があっという間に過ぎました。

市内最初の見学場所の景福宮では通り雨に降られましたが、ハンさんの丁寧なガイドを聞きながら1時間以上回りました。その後、光化門広場を経て、そして日本大使館前の「少女像」を見学しました。頑丈な柵の中の「少女」は、果たして守られているのか、それとも閉じ込められているのか、複雑な思いを抱きました。「少女」のまなざしの先に真の平和があることを願いつつ、その場を後にしました。長い一日の締めくくりは、全員での夕食会です。孔徳駅近くの豚ハラミ焼肉のお店にバスで移動。夕食を全員で食べて、ホテルにチェックイン。長い一日が終わりました。





### 昼食・石焼ビビンパ 돌솥비빔밥

仁川空港から10分くらいの食堂で昼食をとりました。メニューは石焼ビビンパです。早朝の出発でお腹が空いていたことも手伝って、熱々のビビンパがあっという間になくなりました。お代わり自由のおかずも4品あり、大満足のランチとなりました。

昼食後、移動のバス車中で、8月1日の交流会で歌う「ふるさとアリラン」を練習しました。合唱指導は愛高教の竹内（佐）さん、人数分の楽譜を持ってきてくれました。YWCAの吉澤さんは、リコーダーを持参して、音取り・伴奏を担当しました。



### 景福宮 경복궁

朝鮮時代(1392~1910)の正宮、景福宮が最初の見学地でした。1592年には、豊臣秀吉の侵略で建物の大部分が消失、その後270年間、廃墟として放置されていて1867年に再建されるも1895年に日本の軍隊による明成王妃殺害事件が起きました。実際に明成王妃（閔妃）の遺体を焼いた場所も見学しました。1910年以降は日本の朝鮮総督府が正殿の前に建てられるなどして多くの建物が破損したとのこと。景福宮が受けた多くの災難が主に日本によるものという事実に胸を痛めました。写真は、屋根雑像(ジャプサン)という魔除けの装飾で「三蔵法師御一行」だそうです。



### 平和の少女像 평화의 소녀상

平和の少女像は、2011年旧日本大使館前に設置されました。「慰安婦」問題解決全国行動（水曜デモ）の場所です。名古屋では2019年あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」で展示中止となったことでも知られています。像にはハルモニの影があり「女性の一生の痛み」を表しています。少女像の周りには柵が設置され、警察官や日本政府への批判姿勢を示しながら少女像を守るためにテントで座り込みをしている男性もいました。物々しい様子に、少女像が本来願う「隣に座り過去と現在と未来にともに思いをはせる」ことの難しさをより感じました。



### 夕食 장수갈매기 본점

#### 豚ハラミ焼肉

参加した方とたくさんお話をしながら交流を深めることができました。  
豚のハラミ焼肉は食べたことがなかったが、とてもおいしく心に残った。

C.K 10代

☆参加メンバーの感想です

## 行程・2日目

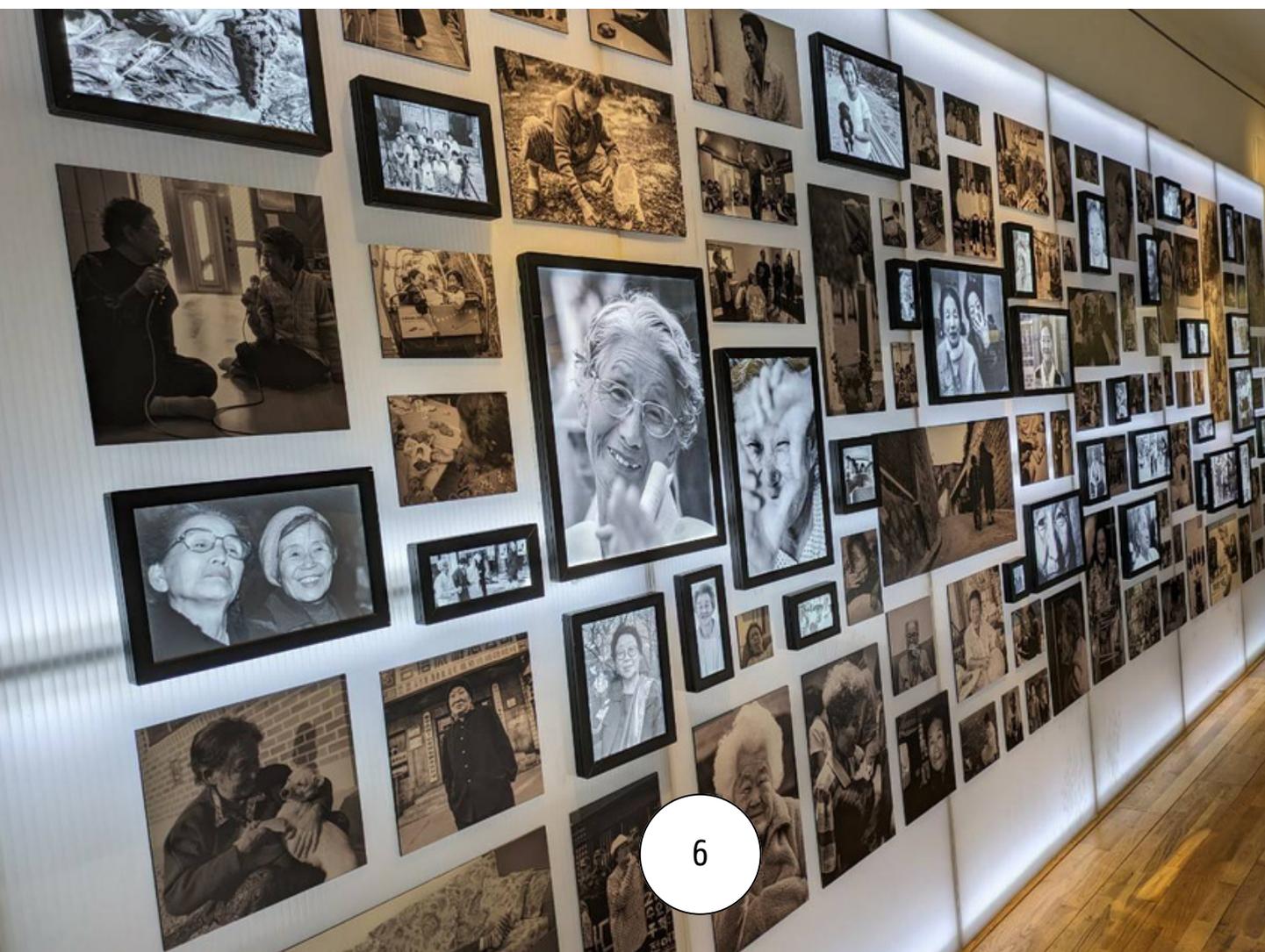
## 過去と現在をつなぐ

旅の2日目、この日は参加者の関心事に合わせて3つのフィールドワークが用意されました。

1. 韓国近代史を学ぶ
2. 慰安婦問題を学ぶ
3. フェミニズム・青少年教育を学ぶ

1・2グループは小型バス、3グループは公共交通機関を使って、それぞれの目的地に向けて朝8時すぎから順次ホテルを出発しました。

午後4時半、龍山駅ターミナルビルの会議室に全員が集合。韓国教職員組合の方々との交流会です。互いの教育現場のことなどを意見交換する場として設定していましたが、韓国側から「歌」をプレゼントしたいと申し出があり、急遽私たちも返歌を用意しました。



## フィールドワーク1 韓国近代史を学ぶ



### 江華島 강화도

ソウルからバスで約1時間40分の距離にある江華島。橋を渡り最初の訪問地に行くまでに2度、軍の検問がありました。検問所では、ガイドさんの身分証明書の提示を求められ、バスのナンバーが記録されました。軍人はバスのタラップを上がり私たちを一瞥。それまでおしゃべりに花を咲かせていた車内が一瞬静まりました。この緊張感が未だ戦時下であることを思い出させました。検問所を警備する軍人はみな若く「普通」の青年でした。



### 江華平和展望台 강화평화전망대

最初の訪問地は、江華平和展望台です。南北相互理解の幅を広げ平和統一の基盤を固めることを目的として2008年5月に開館した文化観光施設です。江華湾を挟み対岸に位置する北朝鮮の黄海北道までは直線で2.3kmで、北朝鮮の村や住民を至近距離で眺められるように設計されています。実際に望遠鏡を覗くと動いている車や人影らしいものが見えました。展望台は地下1階から4階までの建物ですが、一般観光客に開放されているのは1階から3階までで、地下と4階は江華島に駐屯する海兵隊専用施設です。



### 江華歴史博物館、草芝鎮 강화역사박물관, 초지진

2番目の訪問地は、江華歴史博物館です。朝鮮時代には首都漢陽を防衛する安全保障の拠点で、近代では国際的な玄関口としての役割を果たした江華島を知ることができます。特に19世紀末、鎖国政策を採っていた朝鮮が開国を求めるフランスやアメリカ、日本と軍事衝突した事件などについて理解を深められます。

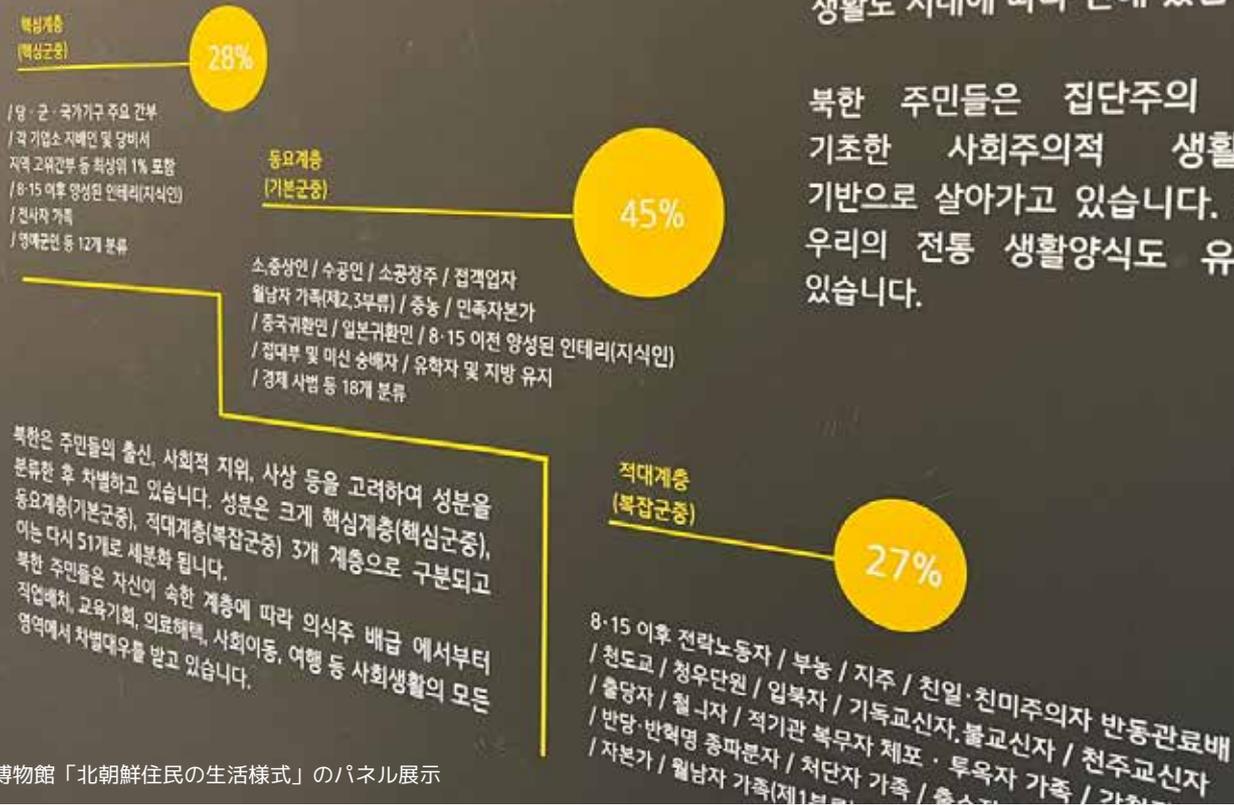
3番目は、草芝鎮です。海上から敵が侵入するのを防ぐための要塞で、外部からの侵攻が何度も行われた激戦地です。日本が起こした「江華島事件」は、朝鮮の鎖国を解くきっかけになったため、日韓の近代史において意義深い地になっています。



### 西大門刑務所歴史館 서대문형무소역사관

最後の訪問地は、1908年に日本が建造し植民地時代に独立運動家などを収監してきた刑務所歴史館です。1987年の軍事政権終結まで民主化運動に携わった人々が収監されました。獄舎をそのまま利用した展示室には、人形や声を用いた展示があり、あまりにもリアルで長くは見ていただけませんでした。様々な拷問の道具もあり、人間の残虐性を感じました。死刑が行われた場所も見学することができます。死刑後に遺体を外の共同墓地に移動させるための隠し通路もありました。遺体に拷問の跡があるから隠したそうです。生きていたときも亡くなってからも人間を人として尊重することのない場と感じました。

분단 70여년을 거치면서 북한 주민의 생활도 시대에 따라 변해 왔습니다.



歴史博物館「北朝鮮住民の生活様式」のパネル展示

☆参加メンバーの感想です

3日間、たくさんのお話を聞き、見て、そして食べ、考えました。ツアーから今日までの時間、わたしが特に思いを巡らし、くり返し味わい直しているのは2日目のフィールドワークのことです。

わたしが参加させていただいた「韓国近代史を学ぶ」コースが最初に向かったのは、江華島（カンファド）にある江華平和展望台と歴史博物館でした。ソウルにある宿泊ホテルからバスに乗って1時間40分程で展望台に到着。江華島は韓国の西海岸、北朝鮮との国境近くにある島です。最も近い所で海峡の幅が1.8kmとのことでした。展望台からはおよそ2.3km先に北朝鮮が望めます。施設の望遠鏡を覗くと、銀色の車が走っているのが見えました。（天気の良い日には外で遊ぶ子どもの姿を見ることもできるらしい）車が走っている。子どもが遊んでいる。文化・暮らしは違えど、この対岸の国にも確かに人の営みがある。こんな当たり前のことを、自分は本当には分かっていたのだと気付かされた瞬間でした。このフィールドワーク中に離散家族についてのお話を伺ったのですが、あの岸に自分の家族、友だち、大切な存在を想う人がいること、そしてもちろん向こうに見える岸からも、今わたしが立つ韓国側の地にその思いを馳せる人がいることを考えました。誰かとの再会を切に祈りながら生活する人がいるのだと知り、一つの国が分断されることの意味を受け止め直し、そこにある人々の記憶、思いを、少しではありますが実感をもって想像することができました。

歴史博物館で一番印象に残っているのは「북한 주민들의 삶의 방식（北朝鮮住民の生活様式）」というパネル展示です（写真）。現在の北朝鮮の集団主義・社会主義の中で、どのように人々が分類されているかということが記されていました。属する階層に応じて職業配置、教育機会、医療など社会生活のあらゆる領域での待遇が変化することです。上位28%が党や軍、国家機構の主要幹部など最上位1%を含む「コア階層」。次の45パーセントが「基本階層」で、小・中商人や手工業、接客業者、中国日本からの帰還民などが該当。そして残り27%が最も低く置かれる「敵対階層」です。ここには親日・親米主義者や入北者、敵機関服務者、投獄者家族、スパイ関係者などが入ります。キリスト教信者も含まれていました。実質自由な信仰が許されない中で、逮捕や時には命の危険も伴う中で、彼らはどのようにして信仰を継承してきたのか、また今現在どのように活動しているのか。どのような扱いを受けているのか。わたし自身教会に属する一人ですが、平和展望台で発見した気持ちを心に留めながら、今後も学び、考え続けたいと思います。 N.K 30代

## フィールドワーク2

## 慰安婦問題を学ぶ



亡くなったハルモニたち



慰安所に掛けられた和名札



慰安所「桜楼」の平面図

## 【最初の訪問地】

## ナナムの家（日本語「慰安婦」歴史館）나눔의 집

ソウルから南東30km、京畿道（キョンド）広州（クアンジュ）市はずれの静かな村に小さな歴史博物館があります。日本軍「慰安婦」歴史館という名のその博物館は、現在も日本軍「慰安婦」被害女性たちが共同生活を行う福祉施設「ナナムの家」の敷地内に1998年に開館しました。

日韓の移民たちの寄付・寄贈により建てられた104坪からなる館内には、各種記録資料、パネル、映像・写真、そして日本軍「慰安婦」被害女性たちが直接描いた絵が展示されています

1992年にできた「ナナムの家」には歴史館の他に、今はもう高齢の被害女性たちが共同生活する生活館、スタッフが常勤する事務所、団体訪問客の対応や祭祀などに利用する修練館があります、スタッフや訪問者達は彼女たちのことを親しみをこめて「ハルモニ（おばあさん）」と呼びます。

## 【2番目の訪問地】

## 戦争と女性の人権博物館 전쟁과여성인권박물관

戦争と女性の人権博物館は、日本軍「慰安婦」の生存者たちが経験した歴史を記憶し、教育し、日本軍「慰安婦」問題を解決するために活動する空間です。また、今も続いている戦時性暴力の問題を解決するために連帯し戦争と女性への暴力のない世界を作っていくため行動する博物館です。韓国挺身隊問題対策協議会は、日本軍「慰安婦」の問題解決を通じて被害者の名誉と事件を回復し、戦時下での女性への暴力を防止し、正しい歴史の確立と平和の実現に寄与しようと1990年11月16日に第一歩を踏み出しました。

1994年資料館建設準備委員会が発足。1999年に西大門の小さなスペースに、日本軍「慰安婦」の歴史を知らせる教育館を作りました。

2004年には、挺対協は「戦争と女性の人権博物館の建設委員会」を正式に発足。約9年余りの博物館建設のための募金活動を経て、2012年5月5日に開館しました。



ナナムの家の第二展示場の、女性たちが書いた絵のギャラリーの作品です。隣の部屋には、写真と共に、彼女たちの日常生活の遺品があり、絵の好きだった方のパレットもありました。絵は、リアリズムというより、心象的な風景を描いたもので、かなり高度な心象の再構成でした。経験や気持ちを形にすることはどれだけ大変だっただろうと思うと共に、その色彩やタッチ、形象は、とてもすばらしいもので、トラウマと向き合い、それを昇華することの具体的な行為や現場というものを目のあたりにしました。かなりの枚数があったので、その点でも、圧巻でした。私たちしかない静かな空間だったので、時間が止まったような、経験でした。建物と部屋もゆったりとしていいギャラリーでした。

ナナムの家は、ドキュメンタリー映画を見ていて、また最初に名乗り出た方と共に過ごした支援者の人たちの話も聞いていて、この運動が、彼女たちとの絆の中から

生まれていることに感銘を受けていました。なので、当事者の人たちに最も近いところに行きたいと考えていました。彼女たちの居住施設だけかと思っていたところ、このような博物館になっていたことも知らず、そしてこのような出会いがあり、来てよかったと思いました。あいちトリエンナーレの運動にも関わってきて、原型の少女像にも出会えたことも感銘深かったです。彼女たちと同じような年代の方々がどのような気持ちを持たれたのかも本当は聞いてみたかったと思います。A.K 60代

.....

私は1番記憶に残ってるものは、ナナムの家に行った際に見た、兵隊に連れて行かれる女性の絵画です。2日目のコースは慰安婦問題を学ぶコースを選択しました。私が慰安婦問題のコースを選択した理由は、断片的な情報を鵜呑みにしなくなかったからです。慰安婦問題のニュースが流れるたびにテレビでは放映できない何かが隠されているような気がしていました。日本のメディアから流される情報に振り回されることなく自分の目で確かめてみたいと思ったことがこのコースを選択した1番大きな理由です。たくさんのお話を吸収しようという思いで向かった先ではたくさんのお話を聞くことができました。その中でも特に衝撃を受けたのがこの絵画でした。



女性が驚いた様子で兵隊の格好をしている人に腕を掴まれているというこの絵画は、最初にこの絵を見た時は、女性が連れて行かれる様子なんだくらいに感想しか感じなかったのですが、様々な背景を学んでいくと、慰安婦となった女性は何も知らされず、時には騙されながら本当に突然連れて行かれ、今の今までしていたことを諦めざるを得なかったといういかに女性が卑下されて慰安婦生活を強いられていたのかが伝わってきました。この写真は慰安婦問題を語られるにあたって有名な絵だと思いましたが、慰安婦問題を知る前と知った後では抱く感想が異なってくる絵であると思います。このスタディーツアーに参加して現代の韓国だけではなく、少し深い部分の韓国を学ぶことができたということが自分にとって1番大きな収穫だと思います。自分だけだったら行かなかっただろう場所にもたくさん行くことができてたくさんの学びを得られた貴重な経験になりました。M.Y 10代



始めて訪れたナムの家。ホテルのあったソウル市内の都会から約1時間、そこは山間の静かな森の中にありました。入り口にはナムの家におられた方々の像があり、訪れる私たちを見据えているかのように、出迎えられました。戦争中、ほとんどの方々が騙されて連れて行かれ、無理やり慰安婦とさせられた状況を目の当たりにし、未だに過去のこととなっていない、解決をはからなければいけない問題であると、実感しました。最後の部屋には、この家で生活していた女性たち一人ひとりの歴史が展示されていました。女性たちは被害にあったことで終わり、ではなく、その後の人生も力強く歩んでいってました。その中で勇気を振り絞って被害を訴え、運動を進めながら、日々の生活を営んでいってました。愛用していた小物や洋服、作品などで垣間見ることができ、「従軍慰安婦の1人」ではなく、名前を持ち、精一杯の人生を歩んだ女性がいたことを改めて感じさせられました。このような被害に対して、何ができるのか、いつも自分の無力に苛まれますが、彼女たちのことを忘れずに、しっかりと胸に刻んで覚えておくことが大切だと感じました。

このコースで訪れたもう一つが「戦争と女性の人権博物館」です。ナムの家とは打って変わって、住宅街にそこはありました。2012年設立とのことで、比較的新しい博物館で、日本語の音声ガイドが備えられており、とても助かりました。博物館と言えば、展示物があり、その解説が表されており、それらを見て回る、という形式がほとんどだと思いますが、この博物館は、音声や展示に工夫が凝らされており、私自身、体験型ともいえると感じられるものでした。戦争で女性の人権がどのように踏み躪られてきたのか、ということについて考えさせられるものでした。写真は、博物館入り口近くにあるレリーフで、従軍慰安婦の現在の姿が描かれています。このレリーフからは、「私たちのことを決して忘れないで！」との叫びが聞こえるようでした。戦争から78年、時代は戦争を体験していない世代へ移り変わろうとしています。だからと言って、これらのことは過去のものにせず、現在も続いている問題だととらえ、未来へと繋げていくことが大切だと感じました。今を生きる私たち一人ひとりが語り続けていくことが大切だと実感しています。S.M 60代

☆参加メンバーの感想です



ナムの家の見学で展示されていた写真です。ベチュンヒ(1923～2014)という方で19歳の時、中国満州で4年間日本軍性奴隷被害を受けたということです。解放後も30年以上中国、日本を転々としながら過ごして1981年ようやく韓国に帰国しました。歌が上手で日本では演歌歌手のような生活をしていただけで、遺品として日本人形が展示されていました。被害を受けた後も苦労して生活を続けていたのだらうと思いました。今回、初めてナムの家の見学に行きました。慰安婦にされた方々一人一人のことが展示されていて、戦後も補償もないまま苦労して生きて生存されている方もわずかだと知りました。

戦争では、国の政策として日本軍慰安所に連行されて強制的に性暴力を受けたことが、よく分かりました。軍隊の覇気を高揚させるために性暴力が公然と行われたことは許せません。今まで、従軍慰安婦について、何となく知っているだけでしたが、実際に当事者の方々の証言や、どのように行われてきたかを知ることができて、初めて自分の中で考えることができました。

日本の大部分の人の見方は、もう政府は謝罪をして補償金も払っている、慰安婦問題は終わったことだと主張している人が大半だと思います。過ちを真摯に受け止めず、いい加減に分かったふりをして、蓋をしようとしていると思います。性暴力が人権侵害だということが軽視されていると思います。今後また繰り返される可能性があります。日本政府は、戦争だからどこでもあったことで片付けず、加害責任として事実を認めて継承していくことで、過ちを繰り返さず、一人一人の人権が大事にされる未来が作られていくと思います。

今回、ナムの家の見学ができ、ハルモニの実際の姿を詳しく知ることができて、この事実をしっかり自分の胸に刻み、これからの平和な世界のために自分ができることを行動していかなければいけないと強く思いました。

今回、韓国スタディツアーに参加して、自分が本当に無知だということがよく分かりました。自分で知ろうとしなければ本当にあったことも知らないで過ぎてしまうとも思いました。韓国の歴史や独立運動についても知ることができました。今後も身の回りの事実を目を向けて知ることから初めていきたいです。今回のツアーでいろいろな職種、年代の方とご一緒できてとても刺激になりました。ありがとうございました。H.Y 50代

☆参加メンバーの感想です

## この私が生き証人なのに、日本政府はなぜ証拠がないというのですか



この写真は2日目の慰安婦問題を学ぶコースで訪れた「戦争と女性の人権博物館」での展示です。この施設では、当時の様子を再現するため展示に音や映像で様々な工夫がされていましたが。ちょうど1年前の夏に観た慰安婦問題をテーマにした映画「雪道」を思い出し、胸がつぶれるような思いで見学しました。

中でも特に印象に残った展示が元慰安婦の方の「この私が生き証人なのに、日本政府はなぜ証拠がないというのですか」の言葉です。そしてこの言葉を読んだ時、当時のことを無かったことにして謝罪も補償もなく平然としている日本政府への怒りがわき起こり、この展示の前でしばらく立ちつくしていました。私自身慰安婦問題について今までも学習し、わかっているつもりでしたが、こうして現地でその記録を目の当たりにすることで、慰安婦となった当時の少女達に思いをはせることができました。

しかし、こうした事実があるにもかかわらず過去の過ちを認めず、反省しないまま現在に至る日本政府は、また同じ過ちを繰り返そうとしています。

今回のツアーで日本を再び戦争をする国にさせないために、今の自分に何ができるか考えること、そして行動することが必要だと改めて思いました。 K.S 60代

☆参加メンバーの感想です



## ハルモニの声を聞く

私が選んだ写真は、戦争と女性の人権博物館で撮影した写真です。お話をしてくださっている女性は博物館学芸員であるイ・ユジンさんです。イ・ユジンさんは日本への留学経験があり日本語を使用してお話をしてくださいました。

イ・ユジンさんのお話しでは、印象に残った話として、虐待を受けた若い日本人女性の話が語られました。彼女は慰安婦問題を学ぶ際に懸命にノートをとっていました。彼女が懸命になった理由は「自分と同じ経験をした人が100年前にいた」という想いがあったからだそうです。

慰安婦問題は、ジェンダー・戦争・人権・植民地・貧困、様々な問題を含んでいます。これは社会構造により引き起こされた問題で、いまもなお続いているのだと考えます。お話を聞いて、私にできることは過去から学び、一人の力では解決できない問題を抱える人に寄り添い、学び合い、力になりたいと思いました。Y.N 30代

☆参加メンバーの感想です

## フィールドワーク3

## フェミニズム・青少年教育を学ぶ



## 【最初の訪問地】

ソウル市ジェンダー平等活動支援センター  
서울시성평등활동지원센터

ソウル市男女平等活動支援センターは、ジェンダー平等社会の実現に向けて活動家たちのつながりを促進し持続可能な活動を支援するプラットフォームです。韓国社会の民主化に女性が正しい役割を果たすことができるよう、女性学、社会学、家族学などの研究者と女性運動家が集まって作ったジェンダー平等教育機関です。人権、平和、国際協力、統一、家族、性主権化、性文化、経済勢力化など様々な領域を網羅するジェンダー平等教育を目指しています。



## 【2番目の訪問地】

## 社団法人「PEACE MOMO」피스모모

みんながみんなから学ぶ水平な「学びあい」の経験と実践を通じて、より平和でより暴力のない社会をつくることを目指し、それを実行する団体として設立されました。体験やアクティビティ、ワークを通じて「平和の感受性」を育て、「平和はみんなのもの」という考えを実践しようとしています。一人一人平和に対する理解や期待が異なるため、すべての教育はリクエストに応じて、またお互いに学びあうために、オーダーメイドで設計、運営されています。



小学生を対象としたワークショップ  
「宇宙ステーション」

## 【3番目の訪問地】

アハ！ソウル市立青少年性文化センター  
전쟁과여성인권박물관

アハ！ソウル市立青少年性文化センターは、2001年からYMCAがソウル市の支援を受けて運営している青少年性教育・性相談専門機関です。「ソウル市青少年施設及び設置運営に関する条例」、「児童・青少年の性保護に関する法律」に基づき運営されている青少年の性教育専門施設です。性認知的な性教育・相談と文化活動を通じて青少年の能力を強化し、またすべての人が尊重される平等で平和な性文化を築くというミッションのもと運営されています。



子宮のモニュメント



### 「ピースモモ」

訪問したらすぐ、日本語で、「ようこそ。初めまして」  
「おつかれでしょう。先にトイレどうぞ。こちらです」  
「飲み物と菓子を用意しました。ご自由にお取りください」と笑顔で話してくれました。  
私たちは暑さと疲れで休憩できて、とてもほっとしました。以下は、私が感動したスタッフの言葉です。  
「今日は、ようこそお越し頂きました。皆さんのことを知りたいのでお一人ずつ自己紹介をお願いします」  
〜〜私たちも一人ずつ自己紹介〜〜  
「お一人ずつ自己紹介をしてもらって、ありがとうございます。  
どんな空間でも、自分を紹介して知り合っていくのが大事と思っている。  
これが、ピースモモの大切にしていることです。つまり、みんながみんなから学ぶ、ということです。  
これまで生きてきた一人ひとりの個性や考え方を、学び合おうということです。  
そこで、あだ名で呼び合うこともピースモモでしています。  
互いに対等で学び合う雰囲気を作るためです。自分の意見を、安心して話せる場づくりを大切にしています。  
暴力でなく、知り合って一緒に考えよう！ということに気づくワークでも、あります。  
今日は、これを覚えて帰ってほしい。教育では、互いに知り合おう！という空間づくりが一番大事。  
みんながみんなから学ぶためです。先ほど（私）が、“自分の意見が言えるように変わった”と話された。  
気づいて変わっていくことも、ねらいです。  
私たちがワークショップをする時、必ず初めに一人ずつの自己紹介をしています」  
「私たちスタッフは、皆さんが来る前にみんなで考えて準備してきました。  
日本語を勉強したり、皆さんが疲れて来るかもしれないから、飲み物や菓子を用意しました。  
机の配置もどうしたら良いか？みんなで考えて準備しました」  
「ピースモモのモモは、著者ミハエル・エンデの“モモ”という本から。  
奪われた時間を取り戻すという内容の本。普段の生活では話さない、平和の感受性について書かれている。  
学ぶ過程が大切だと思う。暴力になる前に防ぎたい」とスタッフが話して下さいました。  
今回のツアーで一番感動したのは、上記の「自己紹介ワークショップ」です。  
「互いに知り合うこと」「みんながみんなから学ぶこと」「変わっていくこと」の大切さを、  
ワークショップで体験できました。  
私は自己紹介を1分でできて、とても満足な気持ちになりました。  
互いに知り合った後の満足感は、何とも言えません。  
とても幸せな気持ちになりました。  
互いに交流したり、意見を言い合う土台ができた感じです。  
互いに相手を尊重しようとする雰囲気になりました。  
2時間の訪問で、こんなにも尊重してもらい特別な経験ができました。  
「暴力」にならない関係をつくることは、難しいです。  
日々の生活で活かしていきたいです。 R.S 40代

☆参加メンバーの感想です



私は、ピースモモでのヨン Chol さん、ミニョンさんが説明している姿がとても印象的だったので、お2人の写真を選びました。撮影場所はピースモモのオフィスです。机を囲み、コーヒーを飲みながらピースモモの活動について聞きました。

ヨン Chol さんはピースモモの平和教育の担当で、学校の先生との協力体制や、韓国の平和教育についてお話をして下さいました。

ミニョンさんは、ピースモモの平和イベント、キャンペーン、平和フェミニズムのご担当で、ピースモモが活動の軸としている平和のキャンペーンについてお話を下さいました。

ピースモモは、みんなでみんなから学ぶという韓国語のイニシャルをとった団体で、兵器の製造、輸出反対、安全なスペースの提供を軸とした教育計画を立てるNGOということでお話を伺いました。特に、ミニョンさんとは私の東京YWCAにおける業務内容と近く、今後も連絡を取っていきたいと思います。

私は今まで平和のために何かをしたいと思いYWCAに就職し、会員さんをはじめとする方々との関わりを持って就職して半年あまり頑張っています。

今回、お隣の韓国でも平和のために活動をしている団体があるのだということを現地で確認することができ、とても励みになりましたし、力にもなりました。このつながりを今後も生かしていくことができればと思います。

また、今回のスタディツアーで平和フェミニズムという言葉を知ることができました。今回私が参加した目的がRise UP!などの業務に生かせるようなプログラムを視察することができないかということでした。平和のことで、フェミニズムのことを同じ平和のカテゴリーではなるけれど、活動は分けてやるものだと考えていました。しかし、今回のピースモモでの視察を受けて、平和とフェミニズムはつながっていて、一緒に活動をしていかなければいけないものであるのではないかと考えるようになりました。

今回のスタディツアーでは様々な写真を撮り、1枚だけを選ぶというのはとても大変でした。コース3でまわった施設は、もう一度しっかりと研修を受けることができればと思います。視察だけでなく、本当にプログラムに参加してみたいです。M.K 20代

☆参加メンバーの感想です

# 모두가 모두로부터 배운다

Peace MoMoにての『みんながみんなから学ぶ』が、とても印象的です。モモの時間泥棒もよく読み返してたりしてたので、どっきりしたのが、いちばんです。『郷に入れば、郷に従え』みたいな事が、毎日であり、仕方なしみたいな感じで過ごしてきました。でも、自分の中で、消化しきれないことがいっぱいです。変わりたいけど、少ししり込みしちゃうことあれど、少しずつでも、変わりたいって、強く思うようになりました。今回の旅行に参加させて頂けて、違う世界を垣間見させてもらえました。見ただけにとどまらずにと、思いがあります。まだまだ、足踏みですけど凹みもありますけど、そんな今です。 N.N 50代

---

久しぶりの韓国で少し不安もありましたが、ツアーの内容一つ一つが本当に学びの深い内容になっていて、現在までの韓国の歴史と日本との密接な関係をじっくり学ぶことができました。

私が一番心に残ったのは、ピースモモでの研修でした。徴兵制のある国で平和を訴えることは少なからずリスクのあることだと思います。その中でも年間一万人の人達が平和なジェンダー平等について学ぶことのできるピースモモの存在は、希望の象徴だと感じました。時間があればワークショップにも是非参加してみたいと思いました。

集まったひとたちが対話を通して学ぶスタイルがとても素晴らしいと思いました。日本は戦争を過去のものと捉えてしまいがちですが、将来を担うこどもに伝えるために、自分自身がアンテナをはり、世界の情勢や反戦運動などを学んでいきたいと思いました。

他にもたくさんの研修があり、ジェンダー平等や性教育など、日本には無く、ぜひ参考にしたいと思う取り組みをたくさん知ることが出来ました。 T.T 40代

☆参加メンバーの感想です





2日目のCコースが内容が濃くて心に残っています。3つも地下鉄を利用して回るのはとてもハードでした。しかし訪れた施設の3カ所ともがとてもよかったです特に印象深かったのは最後に訪れた「アハ！ソウル市立青少年性文化センター」でした。

今回のツアーでは、ジェンダー平等や性教育の授業作りについて学びたいと思っていたのでとても参考になりました。ジェンダー平等の意識を高めるための支援センターは、ソウル市から委託されて、市の補助金ですべてまかなっているので、セミナーや相談なども無料です。お話を聞くと、行政がジェンダー平等を進めるためにこれだけお金を出し、教育や啓蒙活動に力を入れているからこそ、最近では日本よりも韓国の方がジェンダーギャップ指数が高いことが理解できました。146ヶ国中日本は過去最下位の125位ですが、韓国は105位です。その理由がわかりました。セミナーと言っても一般市民（申込制）向けにも科学的な知識や哲学の話を対話的にじっくり6時間もかけて話し合っていくプログラムを行っているようですが、最初若者の参加も多かったのが最近では熟年夫婦など年配層も増えているそうです。家庭で話してもなかなか理解してくれないから、夫を妻が連れてきて権威のある人の言うことなら入るかもしれないからお願いしますという感じで連れて来られる方も増えているそうです。市の補助でやっているのですべて無料。こういう地道な取り組みがあってだんだんみんなの意識が変わって社会が進歩していくのだと思いました。政府が本気で取り組み、まず制度から整えることは大事だと痛感しました。韓国は、市民が民主化運動に立ち上がり勝ち取ってきたからだと思いますが、ジェンダー平等に向けての制度は整ってきていますが、実態は日本のように若者の就職難、長時間労働、女性が結婚して子育てをして正職で働き続けることはまだ大変で、結婚しない、子どもを持たない人たちが増えていて少子化が深刻だそうです。日本と比べてみることでわかることがたくさんありました。

性教育についてもジェンダーと同じで「アハ！ソウル市立青少年性文化センター」のような性教育を支援する団体に市が補助しています。こんなところがあるなんてとセンターを訪れて衝撃を受けました。発達年齢ごとに性教育を学ぶための素敵な教室が作られているのです（左写真参照）。その教室のしかけが、子どもたちが自然と性の話に関心を示し、対話したくなる工夫がされていました。写真の部屋は小学校高学年向けだと思います。真ん中のグッズには、性に関する用語が貼られ、口に出すのは恥ずかしくてもそのグッズを使ってどんな言葉や知識を知っているかを指導者はつかむことができ、そのグッズを触りながら子どもたちのコミュニケーションがすすむ仕掛けになっていました。そういう環境作りをした上で、説明する教具も手作り感のあるものからとても緻密な立体模型もあり、これは興味津々でのぞき込みたくなると感じました。このセンターに生徒を連れてきて学んだり、センターの職員が学校に出向いて先生達と授業作りをしたりして支援していました。出前授業に使うバスも素敵でした。小グループが狭い空間でわいわい楽しく学びたくなるバスでした。

日本は民間教育団体の学習会などに教師が自主的に学びに行き、学校で性教育の実践をしている先生達もたくさんいますが、行政はどちらかというと学習指導要領の歯止め規定を盾に学校での性教育を積極的にさせないようにしています。日本の性教育やジェンダーギャップ対策が遅れているのは、こういう教育行政や政治の問題が大きな影響を与えているからだとよくわかりました。でも子どもたちのため、未来の社会のためにがんばっている先生方もたくさんいます。韓国だけでなく、他の国の取り組みもこのように具体的に学んで、授業作りに取り入れていきたいと思いました。S.U 60代

☆参加メンバーの感想です



心に残ることがたくさんあり過ぎて1番を選ぶのはなかなか難しいため、訪れてとても羨ましく思った、「アハ！ソウル市立青少年性文化センター」について書こうと思います。

韓国では、子どもや青少年に対する性教育の専門機関を置くという法律があり、今年で23年目と聞きました。ソウル市ではその前年(1999年)から同様の条例があったようです。専門機関は国内に57カ所あり、内ソウル市に8カ所あり、アハセンターが一番規模が大きいとのことでした。性教育を進めるための法律があり、公的な専門機関が存在し、その活動の積み重ねがあるというのは日本との大きな違いだと感じました。

韓国では8歳から性教育を行うことになっていて、学校の授業の一環として児童生徒がアハセンターを訪れるだけでなく、スタッフが性教育バス(中で学ぶことができる)で学校に訪問もするそうです。一方で、課題として、学校での性教育は校長による(性教育への関心があるか)という話もありました。親が子どもをアハセンターに連れてくるという事もあるそうで、気軽に来ることができる施設が整っているのはとても羨ましく思いました。

昨年と今年のテーマは、「カラダそのまま私のカラダ(曖昧ですがそのような感じでした)」で、自分の身体を知ったり、肯定的に受け止めたりということを大切に活動しているとのことでした。ルッキズムの問題は日本でも韓国でも子どもに大きな影響を与えていますが、このような取り組みが公的になされることは希望だと思いました。性やジェンダーについての青少年のスピーチ大会(年に一度ソウル市役所の大講堂で行われる)の紹介もあり、子どもや青少年自身が性文化について考え発信する機会があるということに驚きました。

印象に残ったことは、「今までは身体的に弱いとされる女性にばかり性教育がされていたが、男性にフォーカスしてプログラムを開発している」という話でした。「男性を対象にした性教育というのが、ドイツやイングランドなどにはあり、開発する団体が増えている」と聞き、とても気になりました。「性差別があることは男性にも良くない」という言葉はその通りだと思い、誰もがそういう意識になっていけるように、子どもが小さいうちから、性やジェンダーについて学び、考える機会が必要だと感じました。ソウル市の性教育の年間予算は1億3千万と聞き、税金が正しく使われれば、日本でもこういうことができるはずなのにな・・・と悲しくなりました。

アハセンターには、体験型の部屋が複数あり、一カ所に大勢集めての講義ではなく、年齢に合わせて少人数での体験型の教育を大切にしていました。ゲーム性を取り入れて無意識にある性差別を学んだり、他の惑星人になって話し合ったり、楽しく学べる工夫がありました。壁の色や照明、家具、小道具も凝っていて、どの部屋もワクワクするような面白い空間でした。体験プログラムを進める職員の方が、「子どもたちに男性中心の性社会のことを知ってもらい、変化していけるようしたい」と話していたことが、また印象に残りました。

## 韓国教職員組合との交流会



3つのフィールドワークを終えて、16時30分に龍山駅の会議室に全員集合し、韓国教職員労働組合の皆さんとの意見交流会を行いました。司会は愛知県高等学校教職員組合の竹内佐和子さん、通訳は風間千秋さん、金芝恵さん、清川千春さんです。交流会は、スタディツアー実行委員長の増井さとみさんの挨拶で始まり、次に韓国教職員組合の方々とスタディツアー参加者双方からの合唱。韓国教職員組合は、日本語と韓国語による「人間の歌」、スタディツアー参加者側からは、「ふるさと」と「アリラン」を交互に掛けあい最後には1つになるように編曲がなされた「ふるさとアリラン」を歌いました。

その後、事前に送っていた韓国の教育事情について、韓国の先生たちから丁寧な説明がありました。韓国側からも日本の教育に関する質問があり、活発に意見を交わしました。最後に、お土産を交換、今後の継続的な交流を約束して終了となりました。お土産を用意することは伝えていなかったものの双方で準備していました。スタディツアー側が用意したお土産は、目薬、お菓子、ふりかけ、高校の案内パンフレット、YWC Aクリアファイル・一筆箋・付箋のセットです。韓国教職員組合からは扇子とセウォル号を記念するグッズをいただきました。



一番楽しみにしていたのは、韓国の教職員の方との交流です。歓迎の合唱を歌ってくださるということで、こちらもお返しに歌いましょう、と実行委員の竹内佐和子さんに言われて思いついたのが、以前在日の方たちとの交流の催しで知った「ふるさとアリラン」でした。移動のバスの中で練習を重ね、本番は大成功！むこうの方々も口を動かしている様子が見え、涙ぐんでいる方もみえたようで、日韓の交流が実感できる歌だったのではないかと思います。

佐和子さんと私は「愛知教職員合唱団きぼう」のメンバーで、合唱団では職場や生活の中で感じる様々なことを創作曲にして歌っています。日本大使館前の少女像をテーマにした「ソウルの少女」という歌は、歌詞の一部を韓国語にし、2018年12月の水曜行動で、少女像の前でも歌いました。今回、韓国の合唱のみなさんが、日本語を交えて歌われる様子は、まるで私たちの合唱団のようで親しみを覚えました。みんなで歌うことは、心を合わせる力があると思います。そのためには、歌詞の意味、言葉を理解することが必要です。

メインの質疑応答では、通訳の方を通して、日韓の教育問題について真面目な深い話し合いができたと思います。言葉がわからないのはもどかしいものです。通訳のみなさんありがとうございました。時間が足りず、事前に教えていただいた韓国語の自己紹介や、名札を書くことができなかったのは残念でした。ちょっとした、たわいのないことでも、通じる嬉しさを味わいたかったです。以前からハングルをマスターしたいと思っているのですが、なかなか進みません。日本語に一番近い、隣の国の言葉。読むのも、話すのも、歌うのも、言葉を学ばねば。M.H 60代

☆参加メンバーの感想です





☆参加メンバーの感想です

まず交流会に参加する前、バスの中で歌の練習をするなど、  
みんなで一つのこと（合唱）に向けて練習する中、  
私達の中でも一体感が生まれ、仲間意識が芽生えてきたと思います。

特に交流会の時には韓国側の歌の上手さにびっくりし、  
別に対抗していたわけではないけど  
日本側も頑張って歌って、さらに韓国側も一緒になって  
みんなで歌った時には少し感動しました。  
日本に戻ってきた後も、その練習の風景や歌などは  
なかなか頭から離れられなく  
良い思い出になりました。

本格的な交流会では、  
自由に質問も意見も交換できてよかったと思います。  
近年日韓の交流が滞っていると思われる中、  
参加者は互いに高い関心を持って質問をし、  
虚心坦懐に疑問点と意見が交換できたと思います。

私個人的には通訳だったので  
少し長く感じられましたが(^^;)、  
その場での意見交換がとても熱くて活発だったので  
時間が足りないと思うぐらいで、  
またそのような機会があったらと思いました。

J・K 50代

# 現地教職員との交流会報告

日韓の市民レベルで継続的な対話の場を設けることが「未来」につながる第一歩、としてスタディツアーの企画段階から現地の教職員の方々との交流を行いたいとの声が行委員より出されていました。しかし夏休み中のこともあり中々交流先が見つからない中、私たちの思いに答えてくれたのが、韓国教職員労働組合ソウル支部の教職員の方々でした。

「せっかく名古屋から来てくれるのだから歓迎の歌でお迎えしたい」と15名ほどの韓国教職員労働組合の合唱部の方が、黒色で添えたTシャツで来場、プロ並みの歌声を披露してくださいました。その後、私たちが事前に質問していた内容に応じて専門の先生方6名が会場に来てくださいました。私たちの質問に対する、現地の教職員の方々からの意見や回答をツアー実行委員の後藤静さん、竹内佐和子さんがまとめてくれましたので、以下にご紹介します。

- 交流会日時 : 8月1日(火) 16:30~18:30  
交流会会場 : 龍山駅ターミナルビル内council room (ソウル市龍山区漢江路3街40-999)  
交流先 : 韓国教職員労働組合ソウル支部



## (1) 韓国教育事情 (事前学習含む)

### ○韓国の学校教育について

- ・日本と同じ6・3・3・4制で2021年から高校までが義務教育(授業料は無償)となった。退学はなく、問題をおこした生徒などは「強制転学」という形(全体12~15%)となることが多い。
- ・学校は2学期制で3月スタート。1月~12月生まれで学年が決まる。

### ○高校教育について

- ・一般の公立高校(公立:私立=6:4)は、授業料無償で、2025年度より、高校単位制度がスタートする予定である。
- ・高校は、30~40名1クラス編成で、生徒は、8時に登校、7時限まで授業。その後に補習授業が20時ごろまで実施されている高校が一般的。図書館も22時まで閉館。
- ・ソウル特別市、釜山広域市など一部地域では学区に基づく総合選択制が採られており、私立高校を含めた全ての高等学校において、内申書と適性試験の成績、居住地域により広域自治体の教育庁によって振り分けられる(平準化政策)。
- ・一般高校か商業高校、工業高校などの特性化高校や普通科と専門学科が一緒にある(総合)高校もあり、成績順で振り分ける方法がとられている。
- ・高校受験があるのは特殊校で、①科学英才学校 エリート校(2000年~英才教育振興法施行。全寮制、寮費無料、奨学金あり)②特殊目的高校(体育、芸術、外国語など特定分野の英才教育を行う。入学受験有。)③自立型私立高校(全国に24校あり、ジャサコと呼ばれる。全寮制が多く、学費は公立の2~3倍。)
- ・4年制大学進学率が日本よりも高い。背景には、徴兵制度が影響していると思われる。男子の徴兵は高校卒業から30歳までの間に1年半であるが、大学に進学しない場合は高校卒業後即入隊することになっている。
- ・高校まで給食がある。近年は、男女共学校が増えてきたが、クラスは男女別。
- ・2025年からは、特殊目的高校、自立型私立高校は、受験なしの公立一般校に転換される。
- ・日本の大学入学共通テストに該当する「大学修学能力試験(修能(スヌン))」は、毎年11月に実施され、個別の大学の筆記試験(論述を除く)は禁止されている。
- ・修能(スヌン)で難題が出題されることになると、その準備のために受験生が塾や予備校で対策を取ることになり、教育費がかかり過ぎるからという理由で、今年2023年、ユン・ソンニョル大統領が「難問を出さないように」という指示をした。
- ・中学・高校の国史・国語の教科書は国定で、教科書作成には、様々な試みがされるが、高校の学習が大学入試のための教育になりがちで、授業は問題を解くという形式になりやすい。
- ・教育を、経済力を得るための手段と考えることが多い傾向にあり、教育行政を所管するのは、中央「教育部」と地方「教育庁」で、教育庁のトップは選挙で選ばれるため、教育政策が政治変化によって大きく変化することがある。



## (2) 外国語教育について

英語学習は、小学3年生からスタートする。2015年度教育課程より高校で第2外国語がスタートした。技術、漢文の授業との選択で、日本語、中国語・ドイツ語・スペイン語、ベトナム語・ロシア語・アラビア語から選択できる。週2回。

## (3) 生徒たちの自治活動について

生徒会や行事の活動は活発。ただし校内での活動が主で市民活動との連帯の動きはない。制服は2017年から国の支援あり。制服には生徒の意見が反映されることが多く生徒の抵抗はない。

## (4) 教師の労働組合活動について

1989～全国教職員労働組合（幼稚園～高校）は民主的システムや労働者の権利を要求。組合員は、減少傾向であったが、2017年以降、若い教職員の支持を得て組合に加入する人が増加に転じた。

## (5) 市民運動や民主主義について学校でどう扱われているか

社会科が中心となって取り扱うことが多い。ただし、授業は入試のための教育という側面が強い。一方、教科書には多様な提言が掲載されている。

## (6) 教育現場のICT化はどのように進んでいるか

経済力強化のための「世界市民」を目指す教育が目標とされ、言語・文化・デジタル教育が柱となっている。2000~ICTブームで学校教育に取り入れられたが、コロナによりデジタルの過重な使用が子どもたちの学習に良くない影響を及ぼすことが明らかになってきている（ユネスコも教育への制限を勧告している）。

## (7) コロナ禍での教育実践で感じたこと、明らかになった問題点などはあるか

オンラインでは代用できない側面が学校教育活動にはあることが明らかになった。情報格差の問題が起きている。入試の在り方が変わらなくては教育が根本的に変わることはないと感じている。

## (8) 障害児教育などインクルーシブ教育実践はどのように行われているか

特別支援教育は「インクルーシブ教育」の考え方を基本とし、共感性・多様性教育を理念とする。各教科が中心となって授業設計が行われ、合理的配慮が必要な場合特別支援教員が配置される。個々の状態に応じ、拡大鏡や拡大教科書、拡大ワークブック、手話通訳や映像を活用する授業などの補助具や人的支援を提供している。一人で学習を継続していくことが難しい生徒に対しては、試験時間の延長や問題用紙の拡大印刷、代読、代筆などの支援がなされ、オルタナティブ教育も重視している。

## (9) ルッキズム（外見至上主義）の課題はあるか

大学に入ると外見が変わると言われている。自分自身の身体を愛することができるようになってほしいと思っている。



交流会に参加していただいた先生方はすべての質問に誠実に答えてくださった。異なる国ではあるが、ともに教職に就く仲間として子どもたちのためにより良い教育を目指していきたいと強く感じる交流会であった。

外国語教育やICT教育の推進は、韓国の教育実践が日本の20年先をいっている。日本が懸念する事項をどのように乗り越えているのか韓国から学ぶべき点は多い。

韓国社会ではこれまで教師に対する尊重や尊敬は大変高かったと言われている。しかし、急速に進展する格差社会と少子化の中で韓国の学校は現在多くの保護者対応という問題を抱えている。今年、小学校の教師が自死する事件が起こった。それを契機に教職員の抗議活動も活発化している。韓国の教員は今、労働環境や教育改革など大きな変化に直面している。それは日本の教育も同様である。異なる文化・社会と交流することで新しい視点や知見を得、新しい試みを生み出す、そうしたきっかけにこの交流がなると感じた。今井智子さん（愛知県高等学校教職員組合女性部執行委員）の「韓国の人々から学ばなくてはならない」「日本には民主化のために人々が立ち上がり命を懸け社会を変革させた経験がない」という言葉で交流会は締めくくられた。



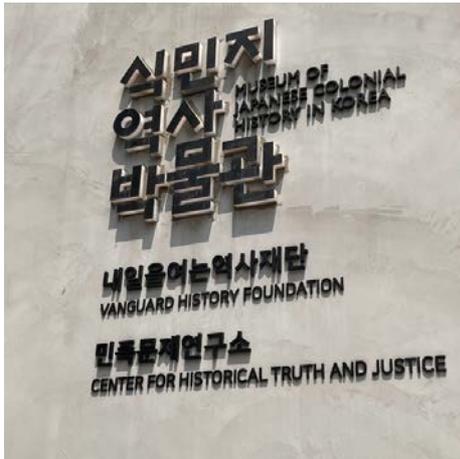
## 報告・3日目

## 学びと希望、未来への一歩

あっという間の最終日、午前中はフリータイムでした。希望者には2022年から一般公開が始まった青瓦台の内部見学の他、北村韓屋、仁寺洞を散策するオプションツアーが用意されました。

思い思いのソウル観光を楽しんだ参加者はホテルに12時に集合。最後の目的地である植民地歴史博物館に向かいました。「しっかり説明したいから早く来てほしい」という学芸員の方のリクエストで1時間早く到着し、2グループに分かれて見学しました。テーマ毎にまとめられた展示ゾーンでは、時に目を背けたいような資料を目の当たりにしながらも、丁寧に熱のこもった学芸員の説明に時間を忘れました。後ろ髪をひかれながら博物館を後にし、大活躍の通訳さん3人のうちのお2人ともここで別れ、金浦空港経由で仁川空港に到着。参加者それぞれの思いを胸に、18:00発の便で空路帰国の途につきました。中部国際空港には19:50に到着。2泊3日の旅を無事に終えることができました。





## 植民地歴史博物館 식민지역사박물관

日本の帝国主義の侵略の歴史とそれに加担した親日派の罪状、抗日闘争の歴史を記録・展示する、初めての日帝強占期専門の歴史博物館です。この貴重な歴史文化空間は、民族問題研究所と太平洋戦争被害者補償推進協議会などの市民団体、独立運動関係者、学界が中心となり、民間の力だけで設立されました。強制併合100年の翌年、2011年に民族問題研究所の提案により、過去の清算のために努力してきた学会、法曹界、言論界、社会運動界など各分野の代表からなる「市民歴史館建設委員会」を発足させ、建設基金の募金を開始、2018年8月に開館しました。日本の市民からも多くの支援が集められました。5階建ての建物で展示室、資料室、イベントホールなどがあり、3階には民族問題研究所があります。展示の見学だけでなく、フィールドワークも用意されているので、何度となく訪れたい博物館となっています。



### 【植民地歴史博物館の展示構成】

- 第1ゾーン 日帝はなぜ朝鮮を侵略したか
- 第2ゾーン 日帝の侵略戦争、朝鮮人に何が起こったか
- 第3ゾーン 同じ時代、違う人生—親日と抗日
- 第4ゾーン 過去を乗り越える力、いま、私たちは何を  
知るべきか



### ツアーガイド ハンさん 투어 가이드 한경례 씨

初日の空港での出迎えから最終日の見送りまで3日間お世話になったガイドのハンさん。堪能な日本語と豊富な知識を使って立ち寄り先のみならず、バスの車窓から見える建築物、旧跡についても丁寧に説明してくれました。移動中少し時間があると、健康寿命を延ばす様々な体操の指導員に早変わり。参加者の元気と笑顔を引き出してくれました。参加者に気を配り、そっと声をかけるケアの一方、ツアーの進行を考えて時間の調整などを提案してくれる旅のプロフェッショナルでした。「日本の女性最近元気になったねえ」という言葉を私たちにプレゼントしてくれました。



### 韓国語通訳 동역사들

今回の旅に同行してくれた通訳さんたち。様々なところで私たちのコミュニケーションを助けてくれました。圧巻は現地教員との交流会の同時通訳です。臨機応変、そして瞬時に通訳する姿にしばれました。参加者が通訳を依頼しやすいように、どこにいても目立つ「Y」マークのチューリップハットを被ってくださったことにも感謝します。

# 「親日」とはどういう意味で捉えていますか



植民地歴史博物館の見学を終えて、金秀丸さんを囲んで記念写真

どの訪問場所もそれぞれに学びがあり、現地でしか感じられないことがたくさんありました。植民地歴史博物館の案内で、最初に「親日とはどういう意味で捉えていますか？」という問いかけがありました。日本に対して良い感情をもっている、日本好き、というような意味合いだと私は思っていたのですが、日本に取り入ることで利益や地位を得ようとするのだと教えてもらいました。朝鮮植民地化の中で、「親日」「反日」は構造的に生まれてきた複雑な問題で、歴史を学ばなくては本質が見えてこないのだと気づかされました。また、日本人で有名な歴史上の人物は豊臣秀吉、伊藤博文、だということも驚きでした。どちらも韓国にとっては侵略者の象徴で、日本人がこの二人の人物にもっているイメージとは違ったものであると感じました。

アフリカのことわざに「斧は忘れる、木は忘れない」というのがありますが、やった方は忘れても、やられた方は覚えている。日本が先の大戦、そしてそれ以前も含めて、行ってきた事実を知らずに、今の日韓関係や、この先の平和について語ることはできないのだと感じました。

今回のスタディツアーで、日本の加害性の歴史について知ることができました。これは日本国内にいてはなかなか見えてこないものです。そして、その加害は現場の人間が勝手にやったとか、戦争の混乱の中でそうなってしまった、というようなものではなく、組織的に計画的に構造的に行われたものです。このことへの反省と検証、二度と起こさせないための教育や制度作りなどをしなくてははいけないと思います。自分自身これからももっと学び、現場を訪れ、自分が知ったことを周りの人たちに知らせたいと思います。市民間での連帯の力も感じました。

Y.N 30代

☆参加メンバーの感想です

과거를 이겨내는 힘,  
지금 우리는 무엇을 할 것인가

The Power to Overcome the Past – Our Path Forward

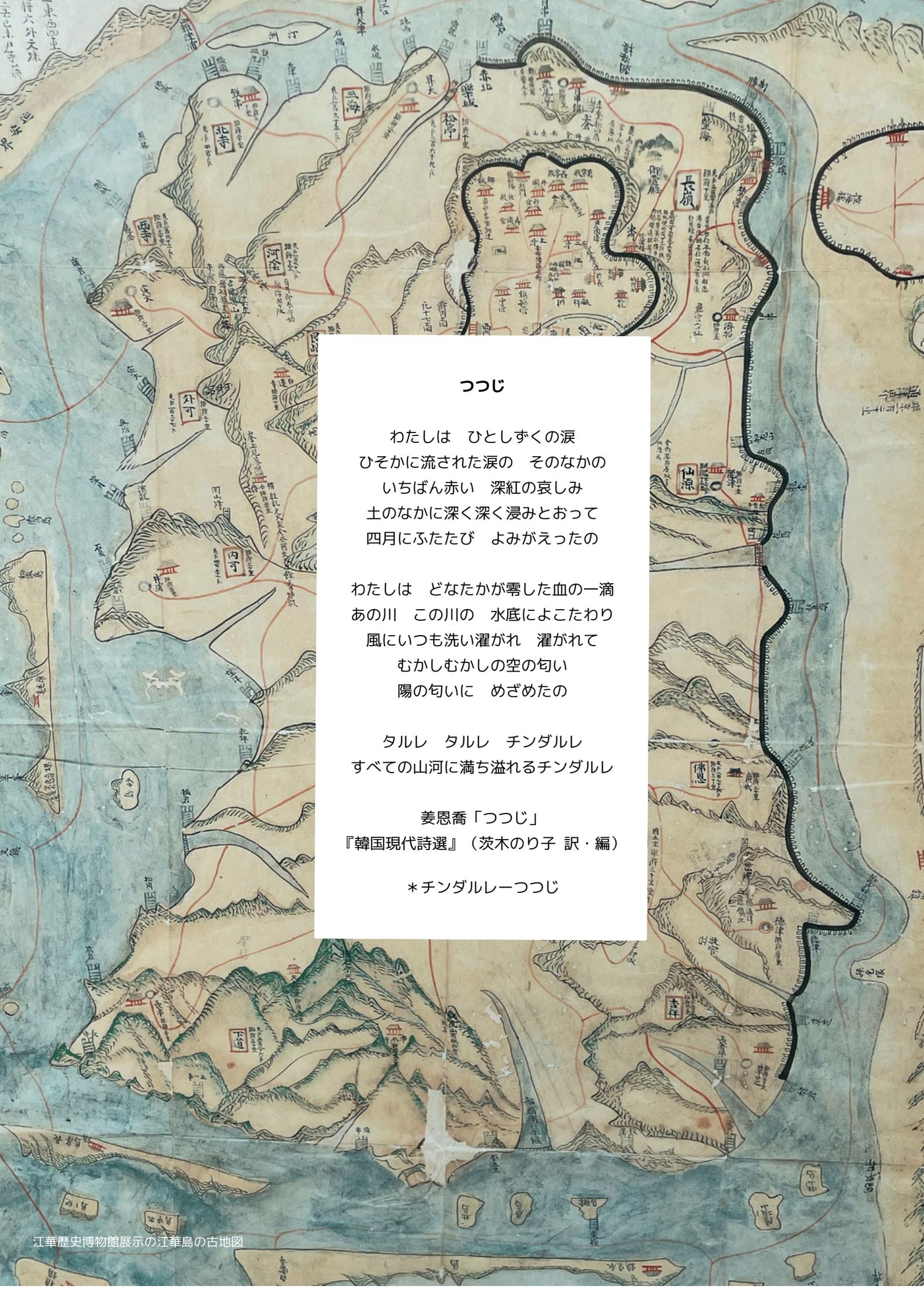
過去を乗り越える力、いま、私たちは何をすべきか

1945년 8월 15일 해방을 맞았다. 그러나 한반도는  
최전선이 되었다. 통일 독립 국가 건설을 바라  
수립되었다. 이어 남북은 무력전쟁으로 충돌  
것은 패전국 일본의 식민지였기 때문이다. 분

## 過去を乗り越える力、 いま、私たちは何をすべきか 과거를 이겨내는 힘, 지금 우리는 무엇을 할 것인가

「植民地主義」をコンセプトにした博物館と聞きイメージしたのは  
「過去」のできごとを学ぶ博物館であった。  
しかし、博物館の入り口にある言葉は「いま、私たちはなにをすべきか」であった。  
「植民地主義」は決して過去の出来事ではなく、  
今の人々が置かれた理不尽な状況を生み出す原因でもあった。  
今を知るために過去の歴史を学ぶ、だけではなく、  
現在の問題を生み出している根幹としての過去を乗り越える重要性、  
そのことに気づかされた。 S.T50代

☆参加メンバーの感想です



## つつじ

わたしは ひとしずくの涙  
ひそかに流された涙の そのなかの  
いちばん赤い 深紅の哀しみ  
土のなかに深く深く浸みとおって  
四月にふたたび よみがえったの

わたしは どなたかが零した血の一滴  
あの川 この川の 水底によこたわり  
風にいつも洗い濯がれ 濯がれて  
むかしむかしの空の匂い  
陽の匂いに めざめたの

タルレ タルレ チンダルレ  
すべての山河に満ち溢れるチンダルレ

姜恩喬「つつじ」

『韓国現代詩選』（茨木のり子 訳・編）

\*チンダルレーつつじ

# 「これまで」と「これから」

## 【これまで①】 ツアー前に、韓国の「今」を知ることがを目的に、事前学習会を行いました。

- 日時 : 2023年6月17日(土) 19:30~21:00  
場所 : オンライン (ZOOM使用)  
講師 : 福島みのりさん (名古屋外国語大学現代国際学部准教授)  
テーマ : 現在韓国社会・文化について  
1. 『82年生まれ、キム・ジヨン』からみる韓国フェミニズムの今  
2. 世代・ジェンダーから見る日韓関係  
3. 日韓における大衆文化交流の役割
- 参加者 : 40名 (公開講座)  
参加費 : 無料・寄付つきチケット1,000円 いずれかを選択

### 参加者感想



17歳・高校生

面白かった。民主化したの本当に最近って、初めて知った。だからこそ、今まで言えなかったことを今、言っているんだなーって知るだけで、だいぶ見方変わった。勝手に国交正常化されて「支援するから、もう昔の話なしね」って、当事者の人からしたら最悪すぎる本当に嫌だっただろうなって、そりゃ声あげ続けるしかないよな、と思う。(後略)

## 【これまで②】 スタディツアー後、フィールドワークについてシェア会を行いました。

- 日時 : 2023年8月22日(火) 19:00~21:00  
場所 : オンライン (ZOOM使用)  
内容 : フィールドワークのグループに分かれて報告をまとめ、全体でグループ毎の報告を行った。また訪問先で個別に知ったことを皆の知識となるように共有した。

### 参加者感想



40代・教員

自分以外の2つのフィールドワークに行った人の感想が色々聞いて良かった。また同じ場所に行っているけど感想が違いシェアすることで多面的に考えられるようになった。

## 【これから①】 ツアー2日目に交流会を行った韓国教職員労働組合ソウル支部と、継続的な交流会を行うことを前提に、連絡を取り合っています。韓国側では、今後、交流に向けた特別チームを立ち上げる予定と聞いています。



ソウル支部  
カン・ソヨン先生

交流会でお会いできた全国教職員労働組合ソウル支部の組合員カン・ソヨンです。暑い夏の日、名古屋YWC Aや教職員の方々による「ふるさとアリラン」の歌が今でも耳に残っています。交流会の後、本当に感動的だったという意見を共有しました。改めて感謝いたします。支部でも皆さんとの継続的な交流を望んでいます。交流したい気持ちがお互いに出会ったことだけでもとても嬉しいです。これからの交流が楽しみです。

## 【これから②】 ツアー2日目のフィールドワーク<フェミニズム・青少年教育を学ぶコース>で訪問したピースモモのワークショップを体験することを計画しています。

当初は、オンライン上で開催する計画でしたが、実行委員から「対面で行いたい」との声があり、講師を名古屋にお呼びすることも含めて検討しています。ワークショップのテーマは、実行委員会で話し合い「ジェンダー感受性と平和能力」としました。ピースモモからは、ワークショップ実施には、ファシリテーター2名、ピースモモの活動をよく理解し通訳できる方1名が必要との連絡を受けています。予算的な裏付けを得て、2024年の開催を目指します。

## ツアー概要



### スタディツアーのはじまり

名古屋YWCAの設立90年を記念して、韓国スタディツアーを実施したいという意見が出されました。これから日韓関係を作っていく若い方々や、彼らの育成に関わる教員にも参加してほしいとの思いで、愛知県高等学校教職員組合女性部に共催を依頼したところところ承諾を得られ2022年に実行委員会が立ち上がりました。以降9名の実行委員による打ち合わせを重ね、スタディツアーの全てのことを話し合いながら、決めていきました。韓国スタディツアーが、日本YWCAのローカルアクションとして認められ、助成金を得てユースの参加費に充てることができました。



### 参加者の横顔

#### 【居住地】

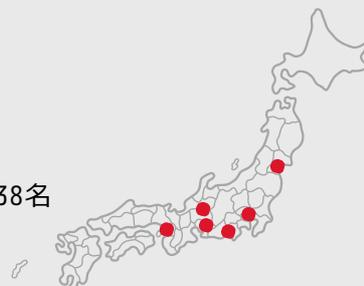
愛知県/名古屋市内 12名 市外 14名  
東京都・岐阜県 各3名ずつ  
宮城県・静岡県・大阪府 各2名ずつ 計 38名

#### 【参加の年齢層】

様々な年齢層から参加がありました。  
全体の1/3 (12名) がユース (35歳以下) でした。  
10代 5名 / 20代 2名 / 30代 5名 / 40代 7名 / 50代 8名 / 60代 11名

#### 【職業等】

教員 (高校・大学) 50%、対人援助・ケア関係18%、学生16%、その他16%でした。



### 旅データ

#### 【参加費】

学生：30,000円 / ユース (35歳以下)：40,000円  
一般：115,000円 / 通訳：50,000円  
\* 学生、ユース、通訳の差額分を名古屋YWCAが負担しています。  
\* 燃料サーチャージ、空港使用料等、1人当たり22,150円別途支払い

#### 【旅行社】

株式会社富士国際旅行社 (担当：山田夕凧さん) 電話：045-212-2101  
神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7ヒューリックみなとみらい11F-4  
(韓国側旅行社) Good Feel Tour (取締役社長 朴東哲さん)  
ソウル特別市東大門区典農路37ガギル13-4 2階

## 収支



### 収入

- ・日本YWCA ローカル・アクション助成金 ¥800,000.-
- ・韓国スタディツアー指定寄付 ¥323,657.- (2023年10月末日現在)
- ・名古屋YWCA90周年記念指定寄付より ¥100,000,-  
\* 寄付金は継続して募集していきます。

### 支出

- ・参加費差額補助 学生 ¥85,000×6名 コース ¥75,000×6名 通訳 ¥65,000×3名
- ・通訳謝礼 ¥100,233(3名・源泉所得税含)
- ・事前学習会 ¥22,319 (講師謝礼、peatix手数料、チラシ印刷代)
- ・その他 ¥29,326 (韓国への手土産等)

### その他

- ・上記支出には、YWCA経費は含まれておりません。別途¥286,480が掛かっています。

## 寄付金額

¥ 323,657

2023年10月末現在

非常に多くの方に、韓国スタディツアーをお支えいただきました。  
ご協力・ご寄付に厚く御礼申し上げます。  
ご寄付は、35歳以下の参加者の参加費補助及び  
韓国スタディツアーの運営に有効に使わせていただきました。  
ありがとうございました。

## 事前学習会ご寄付 (敬称略)

安藤いづみ・いがらしななこ・岩田えり子・遠藤恵美子・加藤佐紀子・川上野ゆり・轡田容子  
國枝京子・後藤静・さくらいちえ・島田幸子・新倉春美・西田文乃・増井さとみ・松原恵美子  
吉田亜希

## 韓国スタディツアーご寄付 (敬称略)

池田富代・臼田治子・加藤佐紀子・國枝京子・柴田さくら・杉浦綾子・新倉春美・西田文乃・納戸道子  
朴亜紀子・朴貞蘭・平野直子・古橋みちる・堀尾純子・松村真理子・横井邦子・吉澤道子・ヨシミミドリ

名古屋YWCA90周年記念事業  
韓国スタディツアー報告書

2023年11月発行

---

●発行・編集●

韓国スタディツアー実行委員

<愛知県高等学校教職員組合女性部>  
今井智子、後藤静、竹内朝子、竹内佐和子

<名古屋YWCA>  
島田幸子、二宮由布子、増井さとみ  
(担当職員：吉澤道子、西田文乃)

名古屋市中区新栄町2丁目3番地  
電話 052-961-7707

